

# 令和元年度徳島大学薬学部薬用植物園一般開放事業

蔵本技術部門  
研究開発支援グループ

今林 潔 (IMABAYASHI Kiyoshi)

## 1. はじめに

徳島市国府町の徳島大学薬学部薬用植物園は昭和 41 年度に薬学部学生の教育と研究を目的として設立された。園内には約 800 種類の植物が栽培されており、来園者に分かりやすいように、漢方薬園、水生植物園、民間薬園、ハーブ園等テーマ別に配置している。また、絶滅危惧植物の保護啓蒙を目的とした絶滅危惧植物園にはナカガワノギク、ワタヨモギ、コブシモドキ等の徳島県固有種を中心とした植物を維持栽培している。本薬用植物園では社会貢献の一環として広く一般に本園を開放することを平成 7 年から続けており、令和元年度は通算 33 回目の一般開放になる。

## 2. 概要

期間：令和元年10月7日(月)～11日(金)

午前9時～午後5時

場所：徳島大学薬学部附属薬用植物園  
(徳島市)

来園者数：約700名

主催：徳島大学薬学部附属薬用植物園



図1 シーズアート体験の様子

## 3. 内容

本年は、徳島大学薬学部生薬学研究室によ

る「シーズアート体験」を実施した(図1)。「シーズアート体験」は本園で栽培しているナツメ、ハマナツメ、ハマゴウ、エビスグサ、ハトムギ、ホソバタイセイ、ゲットウ、フジ、キカラスウリの9種の植物種子に加え、これらに金、銀、赤色などのラッカーを吹き付けて着色した7色の種子も準備し、市販されている大、中、小の円形マグネットにデコレーションしていただく来園者参加型の企画で、整理券を配付し、午前と午後定員10名で実施した。始めに、薬用に使用される種子、及び果実生薬の解説を教員や大学院生が行い、その後に製作工程を説明し、参加者は思い思いに好みの種子を接着剤でマグネットにデコレーションした(図2)。



図2 デコレートされたマグネット作品

## 4. まとめ

「シーズアート体験」には多くの女性が参加され、男性より時間をかけて熱心に製作される傾向にあった。また、立体的な作品が多かったことから、用意していた持ち帰り用袋に入らない場合があり、急遽本園園長考案の紙コップを加工した容器に変更した。この紙コップ容器はデザイン等、皆様にたいへん好評であった。